# 「使徒の働き」について

## はじめに

口語訳では「使徒行伝」、新共同訳では「使徒言行録」と呼ばれるこの書は、新改訳では「使徒の働き」と呼ばれます。略して言うときには、いずれも「使徒」です。

英語では〝The Acts of the Apostles〟で、「使徒たちの働き」となっていますが、使徒たちの中で詳しく書かれているのはペテロとパウロのふたりだけです。使徒の働きの前半はペテロの伝道を、後半はパウロの伝道を描いています。しかし、ルカはこの書で、福音宣教の主人公は、ペテロでも、パウロでもなく、イエス・キリストであると言っています。ユダヤで福音を宣べ伝えはじめたイエス・キリストが聖霊により、弟子たちを通して地の果てまでの福音宣教をなさったと言っているのです。

人々は、福音書と使徒の働きが伝えているのは、次のようなことであると言います。「ユダヤで食い詰めた貧しい人々が北部に開拓した町ガリラヤに忽然と現れた若き預言者イエスが洗礼者ヨハネのあとを継いで神の国を宣べ伝えたが、志中半にして十字架に処刑された。しかし、弟子たちがイエスの遺志を継ぎ、ユダヤ教の中に〝ナザレ派〟（使徒24・5）を興し、それはやがてパウロによって理論化されて〝キリスト教〟となり、ローマの迫害にもかかわらず帝国内に広がった。」これは、聖書が伝えていることから一切の超自然的な事柄を排除して、人の目に見える部分だけで構築した意見です。聖書に向かう者は自分の限られた知恵・知識によってそれを

論じるのでなく、そこに書かれているがままのことを整理して受けとめる必要があります。その時、人の知恵・知識を超えた神の真理、キリストのみわざ、聖霊の働きが見えてくるのです。つまり、人々がナザレの預言者とみなしているイエスがじつは神の御子であり、殉教と考えている十字架が贖いのみわざであり、過去の人物としているイエスが今も生きて私たちのうちに働いておられることを認めることができるようになります。

〝History〟という言葉は〝His〟と〝Story〟に分かれています。歴史を、とりわけ、救いの歴史を導いておられるのはイエス・キリストです。ルカの福音書に続いて使徒の働きを読むことによって、人々が〝キリスト教の起源〟と呼ぶものが、じつに神のみわざであり、それが今日まで続いていることを知るのです。

## 使徒の働きの区分

イエスは「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」（使徒1・9）と言われました。「エルサレム」、「ユダヤとサマリア」、そして「地の果て」という地理的な区分が示されていますが、使徒の働きも、この3区分に沿って書かれています。1章～7章はエルサレムで教会が始まり、成長していったことが書かれており、この部分は「エルサレム篇」と呼ぶことができます。8～12章は福音がサマリアにも伝えられたことやペテロがユダヤの各地で伝道し、異邦人コルネリウスにも聖霊が与えられたことが書かれていますので、この部分は「サマリアとユダヤ篇」と呼ぶことができます。そして、13章からはパウロの伝道旅行のことが書か

〜……途中省略……〜

Penguin Club
https://penguinclub.net

私は前の書で、イエスが行い始め、また教え始められたすべてのことについて書き記しました。（1）

「使徒の働き」は「ルカの福音書」と同様、テオフィロに献程されています。「使徒の働き」は「ルカの福音書」と同じ著者、ルカが福音書の続編として書いたものです。ルカが使徒1・1で言おうとしたのは、「この書では、イエスが使徒たちを通して、引き続き行い、教えてこられたことを書きます」ということで、この書物が福音書から切り離されたものではないことを強調しています。この書は、イエスの昇天後、使徒たちがどのように福音を伝えたかを書いているので、「使徒の働き」と名付けられてはいますが、実際は、昇天後も弟子たちと共におられ、ご自分のからだである教会を通して働いておられる「キリストの働き」を書いているのです。

マタイは福音書の最後に、「見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます」（マタイ28・20）というイエスの言葉を記し、マルコも、「弟子たちは出て行って、いたるところで福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばを、それに伴うしるしをもって、確かなものとされた」（マルコ16・20）と書きました。マタイもマルコも、イエスが弟子たちと共にいて、教会を通して働き続けておられると言っていますが、ルカは、そのキリストの働きを、この書物で、具体的に書き著したのです。イエスの働きは地上のわずかな期間だけに限定されるものではなく、今も続いているのです。

**祈り**　主よ、今も、私たちの中で働き続けておられる、あなたの力ある働きに目を留め、それに信頼する者としてください。

エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。（4）

イエスは昇天のとき、弟子たちに「行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい」（マタイ18・19）「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」（マルコ16・15）「あなたがたは、これらのことの証人となります」（ルカ24・48）と言われました。しかし、全世界に出て行き、すべての人々に福音を伝え、キリストの証人となるには、聖霊の力が必要であり、それを受けるには、昇天からなお十日が必要でした。

弟子たちは、かつて、イスラエルの町々村々を巡って宣教活動をしたことがあります。その経験に照らして、そうしたことなら自分たちもできると考えたかもしれません。イエスから与えられた使命に、おそらく心おどる思いだったことでしょう。最終目標は「地の果て」（8）ですが、目標が大きければ大きいほど、彼らは奮い立ち、イエスを見送った後、すぐにでもエルサレムで宣教を開始したいという気持ちになったかもしれません。しかし、宣教の働きは、人間の意欲や力でできるものではありませんし、人々がそれに成功して達成感を味わうためのものでもありません。それで、イエスは、弟子たちに「父の約束」、つまり、聖霊を受けるのを「待つ」よう命じらたのです。「待つこと」によって「力を受け」、「力を受け」て、はじめて「出ていく」ことができるという信仰の道を、弟子たちは学ばなければならなかったのです。

**祈り**　主よ、私たちにも、座して待つことと、立ち上がって出ていくことのふたつを、しっかりと学ばせてください。

〜……途中省略……〜

Penguin Club
https://penguinclub.net

この民のところに行って告げよ。あなたがたは聞くには聞くが、決して悟ることはない。見るには見るが、決して知ることはない。この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、目は閉じているからである。彼らがその目で見ることも、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返ることもないように。そして、わたしが癒やすこともないように。（26～27）

このイザヤ6・9～10の言葉は、イエスによって引用され（マタイ13・14～16、マルコ4・12、ルカ8・10）、ヨハネもこれを引用しています（ヨハネ12・39～40）。そこでは、神の「ことば」であるキリストご自身とそのみわざを、その目で見ていながらキリストを認めず、その言葉を耳で聞いていながらキリストを受け入れようとしなかった人々の心のかたくなさが指摘されています。ユダヤの人々は聖書を与えられ、律法と預言の中に福音を聞かされていたにもかかわらず、それを受け入れませんでした。それでパウロもまた、主イエスが引用したのと同じ言葉を使って、ユダヤの人々の不信仰を指摘し、今後は異邦人がまず救われ、ユダヤの人々の救いは、救われる異邦人の数が満ちるまで、後回しにされると宣言したのです。

異邦人キリスト者は、ユダヤの人々の不信仰を自らの戒めとしなければなりません。誰であっても、福音に聞くことがなければ、救いはないのですから。黙示録に「耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい」（黙示録2・7等）とあるように、神の言葉に聞く耳を持つことが、私たちにも求められているのです。

**祈り**　主よ、あなたの御言葉を聞いて悟り、悟って実行する者としてください。

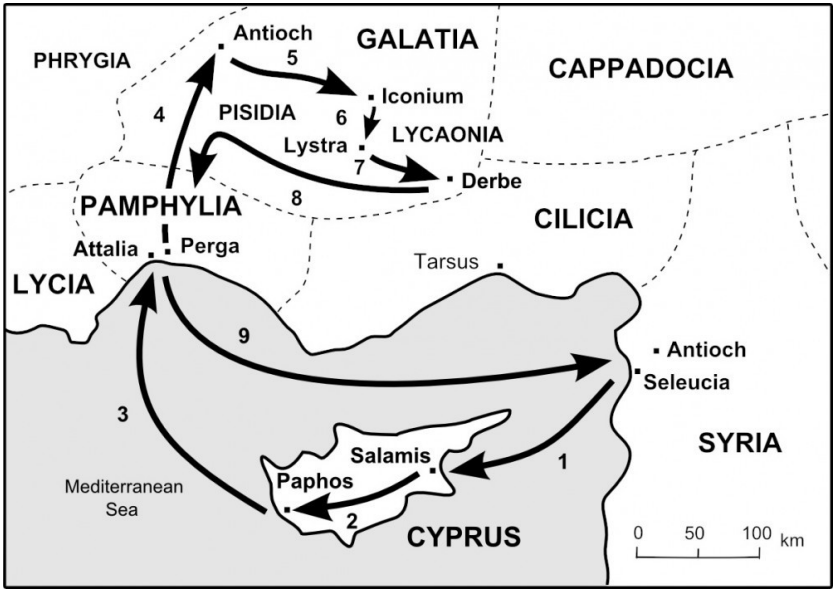
パウロは、まる二年間、自費で借りた家に住み、訪ねて来る人たちをみな迎えて、少しもはばかることなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。（30〜31）

この「まる二年」という数字には意味があります。パウロはエルサレムの祭司長たちから訴えられ、ローマの法廷に上訴していたのですが、そうした場合、一年半の間に法廷が開かれ、判決が下されなかったら、上訴した人の言い分が通り、その人は自由になるという規則がありました。ローマの上級審では、確かな証拠もないのに、みだりに人を訴えるようなことがあれば、訴えた側が罪を問われましたので、おそらく、エルサレムの祭司長たちはローマに行って法廷に出るのをためらい、パウロに対する訴えを取り下げたのだろうと思われます。ですから「まる二年間」という言葉は、パウロがその後自由になったことを言い表しています。

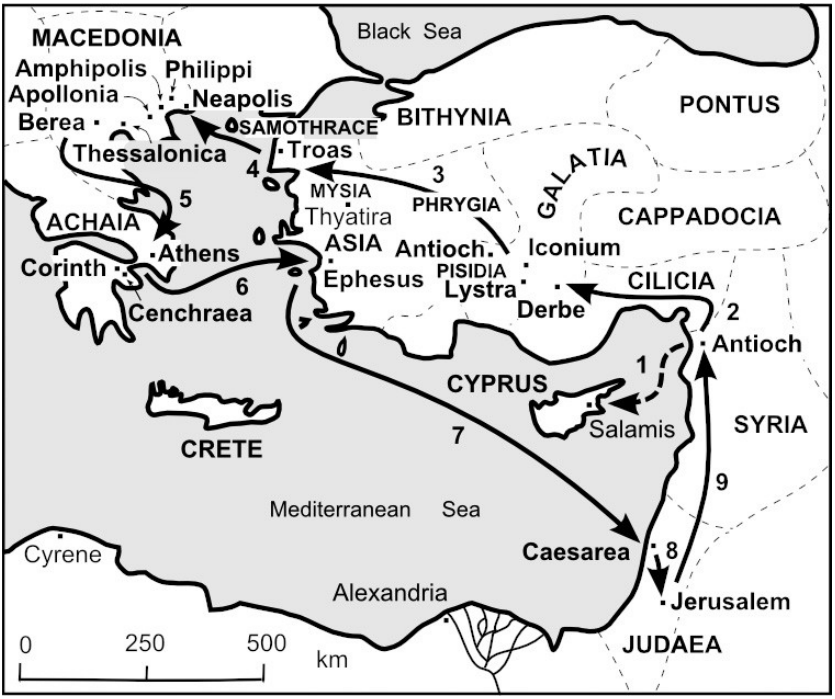
「使徒の働き」はエルサレムで始まった福音宣教が数々の困難を乗り越えて当時の世界の中心ローマにまで至ったところで終わっていますが、それはわずか30年の間の出来事です。福音がこれほどに広まったのは実に驚くべきことで、同じようなことはどの時代にもありませんでした。この書の最後の言葉は、結末をきちんと語っていないように聞こえますが、ここには、福音が今後も迫害を乗り越えて世界に広がっていくことが予見され、福音の勝利が宣言されているのです。

**祈り**　主よ、あなたの福音は必ず勝利を収めます。私たちも福音にあずかり、その勝利を喜ぶ者としてください。

パウロの第１次伝道旅行




パウロの第２次伝道旅行



試し読みはここまでです。

お気に入りましたら、

ご注文ください。

Penguin Club
https://penguinclub.net